

## 「エンド・ゴールでの学びと気づき」

社会福祉学部保健福祉学科 2年 青木 佑磨

活動先：NPO 法人 エンドゴール

クラス：岡 多枝子 先生

### 1. はじめに

私は夏期にサービ斯拉ーニング(以下 SL とする)として、知多郡半田市にある NPO 法人 エンド・ゴールで 11 日間の活動を行った。SL の活動を通しての自分の成長や気づいたことや活動を通して見えてきた地域活動、社会活動について述べていく。

### 2. 活動先の紹介

NPO 法人エンド・ゴールには柱となる 3 つの活動理念がある。それは「次世代リーダーの育成」「自分の掲げた目標に向かって、自信を持ってチャレンジし続ける若者の育成」「他人や社会人を大切に考えることができる若者の育成」である。この 3 つのコンセプトをもとに行っている活動をいくつか紹介していく。

「ちた地域若者サポートステーション」厚生労働省から委託を受け、一定期間無業の状態にある 15 歳から 39 歳くらいまでの若者に職業的自立を支援することを目的にカウンセラー等のスタッフを配置し、事業を実施している。

「フリーステーション」様々な人と出会い、意見交換などを通して交流を深め、必要に応じてゲストを招き、幅広い分野の情報、学習の場を提供していくニュータイプな学びと出会いの場となっている。

「知多娘」就職支援のイメージにはない斬新なキャラクターを起用し、多くの若者にサポートステーションの存在を知って頂けるように PR キャラクターを起用したことが始まりで、現在では「知多半島の活性化」と「若者の就職支援」を目的に誕生した知多みるくに 5 市 5 町のキャラクターと新たに追加された内海お吉を加えたご当地キャラクターのユニットとして様々なイベント等を行っている。

### 3. エンド・ゴールの活動とその目的

私たちは SL 期間中エンド・ゴールが主催する知多娘のイベントの運営や準備も行った。その活動を通して、萌えキャラと就労支援の関係性について知ったのである。起源については上記の活動先の紹介のところにも述べたが、就職支援の PR キャラクターに起用したことが始まりである。そこから規模が拡大し今に至る。知多娘の活動にはイベント等を行うことによって、知多半島に外部からの観光客を増やすことを目的にした地域活性化や声優の活動の場を提供するという意図がある。声優になれる人というのは非常に一握りの人間だけで簡単になれないのが現状である。そんな現状の中、活動の場を生み出し、声優になるためのチャンスをエンド・ゴールは作りだしていることが分かった。

エンド・ゴールの地域の関係性については、イベントで売り出す商品も地元の酒造会社とコラボして商品開発を行うなど、地域の様々な機関・組織を巻き込んでいた。こういったことも含めての地域活性化である。エンド・ゴールは多くの団体と協力して活動を行い、良い意味での相互作用がある。

#### 4. SLの活動を通しての自分の成長と気づき

SL期間中は、インターンシップに来ている他大学の学生と活動を行った。その際に4人1組のチームに分かれた。私たちはフリーステーション担当だった。はじめはどのように進めていけば良いのか分からなかった。しかし、エンド・ゴールでは活動のはじめに、その日の目標や意識することを決める。そして、活動後に反省を毎回必ず実施していた。この習慣によって、企画が進み、先のことも考えられるようになった。また、目標を決めることで、その日の活動で何を身につけたいのか明確になり、活動が充実したものになる。最終的には、フリーステーションの企画も成功させることができ、企画力、コミュニケーション能力、主体性、プレゼンテーション力など、企画を進めていく過程から多くのものが得られ、成長できたと感じた。

気づきの部分では、エンド・ゴールの活動を行っていく中で、目的や意図することを知った。知多娘の活動を例に挙げて説明すると、世間一般の方が知っている萌えキャラクターのイベントと見た目は同じに思えるが、大きく異なることがエンド・ゴール側の活動にはある。それは、NPO法人であるが故に利益目的で行っていないこと、声優の夢を持った若者のために行っていること、知多半島に外部からのお客さんに来ていただくことでの知多半島の活性化を行っていることなどである。そして、全てに一貫しているのは、若者の夢を叶えることだ。この大前提に付随して、他の目的がついてきているだけである。この気づきを知っているのと、知らないのでは大きく意味が違おうだろう。エンド・ゴールの活動は、社会が抱えている問題を解決させるために行っている訳で、裏側の原因を知らなければ、問題を解決させるための根本的な解決には思考が至らないということを学んだ。

#### 5. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

この部分に関しては、知多娘が担っている割合が大きいだろう。知多娘が世間に知れわたることによって、2つの効果がある。それは、上記でも多少触れているが、外部からのお客さんがイベントを目当てにくることやそのためには電車を利用することでの地域活性化が行われている。もう1つは、知多娘を通して地域で衰退しつつある、酒造会社とコラボ商品を作ることやイベントを開催することである。また、このコラボには他にも意味があり、日本の文化でもある日本酒の飲酒を復興するという問題に対する活動でもある。

エンド・ゴールは他にも多くの機関等と協働して活動を行っている。この経済循環の生む流れをつくり出すことによって、地域活動や社会活動を担っていることが分かった。

#### 6. まとめ

いま社会には大変多くの問題が混在している。問題に立ち向かっていくべき存在が私たちのような若い世代である。日本の高齢者を支えるのも私たちだ。少子超高齢社会となった現在、若者を育成していくべきだと感じた。子どもの数が少ない日本の中で、ニートや引きこもりのために社会で活躍していない、もしくは活躍できないのは無駄である。日本にある人的資源もフルに活用していくために、エンド・ゴールのように若者を支援していくことが重要に思った。

参考文献：工藤啓(2011)『NPOで働く「社会の課題」を解決する仕事』東洋経済新報社